



報 告 会

一般社団法人 人間力認定協会

理解は支援の第一歩！

支援の輪を拡げよう！

受講者は延べ一万六千名

協会認定資格は三種類に！

お陰様で当協会の認定資格を受講された方は延べ一万六千名となりました。これも皆様のご支援、ご理解のお陰だと大変感謝しております。

また、二〇二二年四月に当協会が認定する第三の資格となる「SSTスペシャリスト」の新規認定が始まりました。この資格は児童発達支援士または発達障害コミュニケーションサポーターを受講された方だけが受講できる資格となっており、家庭療育を実践するための資格という位置づけになっています。既に数百名の受講者があり、各家庭にてSSTが行われていることでしょう。児童発達支援士から始まった支援の輪が着実に拡がり、子どもたちに良い影響

を与えていると思うと、これまでの苦労が吹き飛ばような気持ちです。

発達障害に関する報道は以前よりも増えたように感じますし、個々に合わせた指導の重要性を説く人も増えたのではないのでしょうか。

とはいえ、まだ地域や学校によって対応はまちまちであり、完全に理解してもらえない状態であるとは言えませんので、今後も普及活動が続けていく必要がございます。皆様一人一人の発信や活動は、全国に影響を及ぼしていきます。私たちと共に支援の輪を拡げ子どもたちの未来を少しずつ変えていきましょう！

理事長より挨拶

当協会の発達障害を支援するための講座も三科目出揃いました。受講者数も延べ一万六千人を超え、支援の輪は日々拡がりを見せています。

受講者の内訳を見ますと、当事者、親御さんだけでなく、保育士、看護師、介護士、医師、小中学校教諭などがバランスよく存在しています。

これはとても良い傾向です。何故なら、これまでの勉強や資格は、サービスを提供する側だけに一方的に提供される知識である場合がほとんどです。それに比べ、親御さんと学校教諭、施設の教職員さんが同じテキストで学んでいる。そのことから、当協会の講座は「理解は支援」という理念を最大に発揮できていると言えるのです。

当協会を受講者の皆様に支えられています。今後ともご支援のほどお願い申し上げます。

人間力認定協会

代表理事 井上智之



大手WEBメディア 日本の資格・検定にて「児童発達支援士」が
2022年注目の資格ランキング部門1位



日本の資格・検定 AWARDS 2022



日本の資格・検定 WEB サイト (<https://jpsk.jp/articles/award2022.html>) より引用

児童発達支援士が一位受賞

この度、大手WEBメディアである日本の資格・検定が「二〇二二年注目の資格ランキング」を発表し、当協会が認定する児童発達支援士が見事一位に輝きました。対象資格は一〇〇以上あり、その中で一位に輝いたこと、大変うれしく思うと同時に、それほどまでに発達障害や支援に関する意識が高まってきていることを意味していると感じています。更に気を引き締めて支援活動を行っていきたいと思います。

私どもが掲げる理念の一つである「理解は支援の第一歩」が少しずつではありますが、着実に浸透してきているという実感もございませう。というのも、最近では個人の受講だけでなく、療育施設や保育園、医療施設などから団体受講のお申

し込みを多く頂いております。施設において児童発達支援士が普及することは、専門知識を持った人や団体が増え、支援の輪が一気に広がっていく可能性があります。そして、児童発達支援士を受講されている皆様が療育施設などで働きたいと考えた時には、児童発達支援士の資格を所持していることが評価されるケースも今後さらに増えてくると思います。

今回表彰頂いた、日本の資格・検定 AWARDS は毎年実施されると聞いております。一回だけの受賞で満足するのではなく、毎年表彰していただけるよう全力で支援活動を続けてまいります。皆様の応援でこのような賞を受賞できました。ありがとうございます。支援の輪を更に拡げていきましょ！未来は確実に変わりは始めています。

エピソードを募集する目的とは



▶エピソードは現在も募集中
ぜひご協力ください



<https://ninkyou.jp/episode>

当協会では、二〇二二年六月より受講者の皆様に「各種エピソードの募集」をさせていただいております。皆様がこれまで経験されてきたことを、今まさにお悩みの方の参考にさせていただく目的で実施しています。

これまで「発達障害に関するコミュニティが欲しい」という声が協会に複数寄せられておりました。恐らくその方々は「気軽に子どものことを相談したい」「困った時に話を聞きたい」と考えていらっしゃるのでしょうか。そこでいつでも自由に閲覧できるQ&Aのようなものがあれば、多くの方に役に立てると思い、現在様々なエピソードの募集を計画しております。

既に三つのテーマに関して協力をお願いしておりましたが、百名以上の方がご協力いただき、沢山の貴重なご意見が集まっています。心より感謝致します。また、各種エピソードで頂いた情報は、理事長ブログにて紹介をしております。今後は、更に皆様が見やすい最善の形にて公開していきたいと考えておりますので、楽しみにしててください。今後ともご協力お願い申し上げます。

【今後募集を予定しているエピソードテーマ】

- ・ADHD 児の投薬について
- ・カサンドラ症候群について
- ・発達障がい当事者が感じる悩みや不安について

※協会公式LINEにて順次募集をさせていただきます。テーマは変更になる可能性がありますので予めご了承ください

過去のエピソードについて情報をまとめています。
詳しくは右のQRコードより「理事長ブログ」を御覧ください！



拡がる認定支援士の輪

新たにご登録いただいた認定支援士のご紹介

(2022.3.1～2022.8.31ご登録者)

個人情報保護のため、ぼかしを入れています

(他匿名希望 数名)

認定支援士より頂いたメッセージをご紹介します

(全員のメッセージを紹介しきれないため、今回は一部の支援士のみご紹介します)

西
エリア

団体名なし

今川 美穂さん

「支援を行う上で大切なこと
親御さんも、周囲の人も、
「発達障害」という言葉にこ
だわりすぎないようにしてほ
しいです。」

診断そのものより重要な
は、お子さんは何が得意で何
が苦手かを知ること。得意な
ことは伸ばしてあげて、困っ
ていることに適切に対応して
あげることだと思います。お
子さんの特性を理解し、どう
すれば幸せで充実した毎日
を過ごすことができるのか、前
向きに考えていくことが大切
だと思います。発達障害の診
断がついても、グレーゾーン
でも、ありのままのお子さん
を受容してあげてください。
そのうえで、得意なことを伸
ばし、困っていることを適切
にフォローしてあげて、長い
時間軸のなかでじっくりと育
ててあげてください。

東
エリア

団体名なし

Cozueさん

「資格取得のきっかけは？
「お母さん、勉強してくだ
さいね」

我が子が自閉スペクトラム
症と診断を受けた時に、医師
の先生がおっしゃったこの言
葉が受講したきっかけです。
子どもの状態や状況を知っ
て支援をするには、親が知識
を獲得していく必要があるん
ですね。
親としての責務でもあり当
たり前なのですが、診断を受
けたばかりで気持的には難
しい面も：そもそも勉強をす
るといふ事が大嫌いな私は当
時複雑な気持ちでした。
それでも先生の言葉が忘れ
られず、インターネットで検
索をしたのです。自身を奮い
立たせ、「我が子との未来の
ために学ぼう！」「私がこの
子の一番の理解者になる！」
と思い立ったのです。

西
エリア

団体名なし
花田 裕妃さん

―資格取得のきっかけは？―
私は発達障害当事者です。十七歳の時に自閉スペクトラム症と診断されました。そして月日は流れ、息子を産しました。今年五歳になる息子は発達障害グレーゾーンで、来年には確定の診断名をつけることができるといわれています。息子は一才十ヶ月から保育園に、三歳からは療育施設にも通っています。息子の通う保育園の先生との話し合いで、視覚支援について意見がわかれたことがありました。私が視覚支援について必要な理由も含めて説明したものの、話は平行線のまま。療育施設の先生が再度説明してくださいってようやく園での視覚支援がされるようになります。なかなか話を聞いてもらえず困っていたため児童発達支援士の資格を受講しようと思えました。

東
エリア

団体名なし
S.Oさん

―資格取得のきっかけは？―
現在十九歳の自閉スペクトラム症の息子がおります。幼児期からコミュニケーションが苦手、小学校は登校しづらく、中学校三年間は不登校でした。高校受験をきっかけに不安障害を患い長期の入院生活を送りました。今は改善し専門学校に元気に通っております。自身の経験と発達障害の知識を学び、教育現場で役立ちたいと思い資格取得に挑戦しました。

―知識を習得して変化は？―
知識を得たことで相手のことを理解できるようになりました。現在小学校の児童の支援サポートの仕事させていだいており基礎知識があることで、取り組めております。

東
エリア

団体名なし
M.Yさん

―資格取得のきっかけは？―
身近に発達障がいグレーゾーンと思われる方が本当に多くて、関わり方に苦労していたので、特徴や関わるコツを学びたくて受講しました。―
支援を行う上で大切なこと
特性を理解し、個々に合った関わり方や環境を整えていくことで、驚くほどご本人の反応や支援者の精神的負担が軽くなると実感しています。また特性に合わせた指導に変えることで、今まで伝わらなかったことが伝わるようになったりします。発達障がいは生まれつきの特性であるとしても、二次障害は支援者が間違った関わり方をしている事でおこってしまう事例も多いため感じました。関わり方のコツを学ぶことによる効果も実感しています。学びが広がりとお互いが生きやすくなると思えました。

～会員様の活動サポート～
活動団体やWEBサイトの紹介
皆様の活動を応援するために、当協会のWEBサイトにて皆様の団体やブログ等をご紹介します。もしご希望の方がいらっしゃいましたら、事務局までご連絡ください！支援の輪を共に広げてください！ info@nikyou.jp

(活動団体のご紹介事例)

